

2つの小学校で過ごした 思い出を胸に

春の陽気が心地よくなってきた3月22日、関川小学校で「第3回卒業証書授与式」が行われ、53人の卒業生が晴れの門出を迎えました。

卒業生53人の出会いは3年前。村内小学校の統合に伴い、関川小学校の生徒として新たな学校生活をスタートさせ、たくさんの思い出を作ってきました。川村三千男校長は「関川小が開校してからの3年間、成長する姿をさまざまな場面で見してきました。何事にもあきらめず、やりとげる姿は素晴らしかった。これからは多くの人と出会い、関係を築き、自分自身を大きく広げてほしい」と旅立つ53人の卒業生に言葉を贈りました。

卒業証書授与式の後、ステージ上で将来の夢を語った子どもたち。在校生と一緒に「ピリープ」を声高らかにうたい上げ、新たな一歩を力強く踏み出しました。



関川小学校卒業式



関川中学校卒業式

「ありがとう」 感謝の気持ちを胸に卒業

春の訪れを間近に控えた3月8日、関川中学校で「第8回卒業証書授与式」が行われ、卒業生65人が思い出の校舎をあとにしました。

今年卒業した65人の生徒は、3年前、村内に5つあった小学校の最後の卒業生。5つの小学校から関川中学校へ入学し、3年という時間の中で、たくさんの思い出を作り上げてきました。

卒業生を代表し、小野周平さん（下関）が「この1年間、これが最後なんだと意識しながらグラウンドや新しい体育館でたくさんの思い出を作ってきました。思い出を作ることができたのは65人の仲間がいたから。みんなありがとう。できることなら、同級生、在校生、先生方ともっと長い時間一緒に過ごしたかったです」と感謝の気持ちを込めて答辞を述べました。

新たな一歩を踏み出した65人の皆さん、卒業おめでとうございました。

2月25日、村民会館大ホールを会場に自主防災会研修会が行われ、各集落の区長や自主防災組織の役員など約60人が参加しました。

これは、自主防災会の育成を目的に行われたもので、村として初めての開催。講師はともに防災士の資格を持つ伊藤敏さん（下川口）と佐藤隆平さん（朴坂）が務めました。

研修会では、二人の講師から災害時の避難の知識や自主防災組織の必要性などについて説明があったほか、地域社会のつながりや結びつきを再

認識することが大切だと参加者に訴えました。

研修会に参加した高田集落の須貝英勝区長は「昨年、自主防災組織を立ち上げたばかりなので、まずは地域の皆さんに防災に対する関心を持ってもらうことから始めなければならぬ」と話していました。

現在、村内54集落のうち、30集落で組織化されている自主防災組織。全集落での組織化を目指し、村では今後も研修会等を開催し、組織化を呼び掛けていきます。

安全・安心な地域づくりを 目指して みんなで考える地域防災

自主防災会研修会



3月7日、農村文化交流センターのくむを会場に「認知症講演会」が開催され、村内外から約30人が参加しました。これは、認知症に対する理解を深めてもらうことを目的に行われたもので、講師は胎内市にある介護施設「ちゅーりっぷぶ苑」の新野直紀さんが務めました。

講演では、現在全国に300万人以上の認知症患者がいることや、ここ10年で認知症の捉え方や考え方が大きく変わったなど現状を説明。また、認知症患者との関わり方につ

いて「病気の特徴を理解し、プライドを傷つけないこと。そして、出来ることを大切にしていけることが重要。認知症患者に安心してもらうためにも身体ではなく心に寄り添うケアを心掛けてほしい」とアドバイスを送りました。

講演会に参加した藏田はな子さん（下関）は「認知症になった方には、寄り添ったケアが必要なんだと思いました。認知症“と”人“という2つの視点で考えるという話を聞いてとても勉強になりました」と話していました。

認知症ケアで大切なこと それは 「心に寄り添う」こと

認知症講演会



上関城400年の歴史に迫る 関川学研究発表会

3月21日、村民会館を会場に関川学研究発表会が行われ、村内外から約40人が参加しました。主催は関川学研究会（伊東正夫会長・下関）。発表会では「上関城400年の歴史」をテーマに渡邊伸榮さん（上関）が講師を務めました。

「上関城」を調べてみるまで、こんなに大変なドラマがあるとは思わなかったと話す渡邊さんは、今から約800年前の鎌倉時代、のちに上関城主となる三浦氏が九州から来任し、廃城となるまでの400年間について、上杉謙信の外交官だったなどの話を交えながら説明。

参加者の須藤和美さん（大島）は「関川村の歴史や自然のことをもっと知りたいと、最近は村民会館の行事によく参加しています。今日の話聞いて、こういう歴史があったんだと本当に勉強になりました」と話していました。



手紙に託した感謝の気持ち ～ 関川小二分の一人式～

子どもたちの成長した姿を見てもらい、親へ日頃の感謝の気持ちを伝えようと、3月12日、関川小学校で4年生児童を対象に「二分の一人式」が行われました。

親子の手紙交換では、佐藤大典さん（上野）が「いつもスポ少の送り迎えをしてくれて感謝しています。僕のがまを聞いてくれてありがとう」と感謝の気持ちを伝えると、母親の幸子さんから「お母さんの子どもに生まれてきてくれてありがとう。いつもニコニコ話しかけてくれて家族みんなが笑っているかけがえのない存在です。これから大人になるまでの10年、前を向き努力しながら頑張ってもらいたい」と愛情たっぷりの言葉を贈りました。

手紙交換では、子どもからの感謝の気持ちに涙を流す親、そして涙を流しながら親の言葉に耳を傾ける子どもたちの姿も見られ、感動的な授業となりました。